

## 常設展 展示作家略歴

開催期間：2023年9月2日（土）～11月26日（日）

岡田 節子 OKADA Setsuko

1917(大正6)年—2008(平成20)年

宮城県に生まれる。1937(昭和12)年、女子美術専門学校高等科西洋画部卒業。卒業後、岡田三郎助の研究所へ入所。1942(昭和17)年、第17回国画展に出品、初入選。1947(昭和22)年、女流画家協会に創立会員として参加。1955(昭和30)年、留学のため渡仏。桜井悦も同行しヨーロッパ各地を取材。1956(昭和31)年、帰国。1957(昭和32)年、第11回女流画家協会展で毎日新聞社賞受賞。女流画家協会展へは、渡仏期間中を除き亡くなるまで欠かさず出品した。女子美術大学名誉教授。享年91歳。

奥田 小由女 OKUDA Sayume

1936(昭和11)年—

大阪府堺市に生まれる。1955(昭和30)年、高校卒業後上京し林俊郎に師事。1966(昭和41)年、第52回光風会展にて初入選。1972(昭和47)年、第4回日展にて特選。1974(昭和49)年、第6回日展にて特選。1976(昭和51)年、日本画家・奥田元宋と結婚。1988(昭和63)年、第20回日展にて文部大臣賞。1990(平成2)年、前年の日展出品作により日本芸術院賞。1998(平成10)年、日本芸術院会員。2006(平成18)年、広島県三次市に「奥田元宋・小由女美術館」が開館。2008(平成20)年、文化功労者。2020(令和2)年、人形作家として初の文化勲章。

奥原 晴湖 OKUHARA Seiko

1837(天保8)年—1913(大正2)年

下総国古河(現・茨城県古河市)に生まれる。谷文晁門下枚田水石に師事。居を構えた上野に画室を持ち、「墨吐烟雲楼」と称して画家としての活動を開始。「晴湖」と号する。この地で文人墨客に混じって詩画書を学び次第に才能を発揮。1872(明治5)年、画塾を開設。多くの門人が入門する。1882(明治15)年、フェノロサの講演をきっかけに文人画が排斥。西洋化の流行などにより、次第に文人画が衰退する。それに凋落し熊谷へ隠棲。晩年は各地を遊歴しながら制作し、文人的生活を送った。享年75歳。

片岡 球子 KATAOKA Tamako

1905(明治38)年—2008(平成20)年

北海道札幌市に生まれる。1926(昭和元)年、女子美術専門学校卒業。教員を務めながら帝展への出品を続け、次第に院展を目指す。1946(昭和21)年、安田靫彦に入門。1966(昭和41)年、愛知県立芸術大学教授に就任したことを機に後半生のライフワークとなる〈面構〉シリーズの制作を開始。1975(昭和50)年、日本芸術院賞。1982(昭和57)年、日本芸術院会員。1986(昭和61)年、文化功労者。1989(平成元)年、文化勲章。古典や伝統を学びながらもその型にはまることなく独自の画風を確立した。享年103歳。

九條 武子 KUJO Takeko

1887(明治20)年—1928(昭和3)年

京都府に生まれる。父は西本願寺第二十一代門主大谷光尊。1909(明治42)年、公爵家出身の九條良致に嫁ぐ。結婚後、すぐに夫の留学に伴い夫婦で渡英するも、一年後には武子のみ帰国。その後、夫と離れて十年間を暮らす。その間、佐々木信綱に師事して歌人として活動。『金鈴』などの歌集を発行する。その一方で、大正期には上村松園に師事し、「松契」という号で絵を学んだ。文筆活動などで得た収入で慈善

活動にも尽力。京都女子専門学校（現・京都女子大学）の設立や関東大震災後は救援活動に積極的に携わった。享年42歳。

郷倉 和子 GOKURA Kazuko

1914(大正3)年—2016(平成28)年

東京都に生まれる。父は日本画家の郷倉千靱。1935(昭和10)年、女子美術専門学校を首席で卒業。1937(昭和12)年、安田靱彦門下生による「火耀会」に入塾。同時期に小倉遊亀もおり学びを共にする。1957(昭和32)年、再興第42回院展にて日本美術院賞・大観賞。1990(平成2)年、再興第74回院展にて恩賜賞、日本芸術院賞。1992(平成4)年、勲四等宝冠章。2002(平成14)年、文化功労者。2003(平成5)年、女子美術大学より初の名誉博士号を授与。2016(平成28)年、正四位に叙せられ、旭日重光章を授与。享年101歳。

桜井 悦 SAKURAI Etsu

1910(明治43)年—1989(平成元年)

福岡県に生まれる。1932(昭和7)年、女子美術専門学校師範科西洋画部卒業。在学中は伊原宇三郎に師事。卒業後、大阪の中之島洋画研究所に入所。小磯良平と知り合い影響を受ける。1936(昭和11)年、昭和11年文展にて初入選。1943(昭和18)年、第6回新文展にて特選。1946(昭和21)年、女流画家協会の創立に発起人として参加。1955(昭和30)年、岡田節子と共に渡仏。翌年、病を得て帰国。長い闘病生活を強いられながらも制作を続けた。享年79歳。

佐野 ぬい SANO Nui

1932(昭和7)年—2023(令和5)年

青森県弘前市に生まれる。1955(昭和30)年、女子美術大学芸術学部美術学科洋画科卒業。1965(昭和40)年、新制作展新作家賞。1969(昭和44)年、新制作協会会員。1986(昭和61)年、前年の「日本の美—現代女流美術第6回展」に出品した作品が文化庁優秀作品買上げとなる。1994(平成6)年、青森県褒章文化功労者。2003(平成15)年、第26回損保ジャパン東郷青児美術館大賞。2007(平成19)～2011(平成23)年、女子美術大学学長を務める。2012(平成24)年、瑞宝中綬章。女子美術大学名誉教授。享年90歳。

多田 美波 TADA Minami

1924(大正13)年—2014(平成26)年

台湾・高雄に生まれる。幼少時代を台湾と韓国で過ごす。1944(昭和19)年、女子美術専門学校師範科西洋画部卒業。在学中は授業外において伊原宇三郎に油絵の指導を受ける。1959(昭和34)年頃から鉄とプラスチックの立体構成作品を手掛けはじめる。1965(昭和40)年、第8回日本国際美術展優秀賞。1971(昭和46)年、第4回現代日本彫刻展にて大賞。1972(昭和47)年、第4回日本芸術大賞。1988(昭和63)年、紫綬褒章。1994(平成6)年、勲四等宝冠章。享年89歳。

津田 裕子 TSUDA Hiroko

1948(昭和23)年—

東京都に生まれる。1969(昭和44)年、女子美術短期大学造形科彫塑教室卒業。卒業後も引き続き桑原巨守の指導を受ける。1977(昭和52)年、二科展に初出品し特選。1978(昭和53)年、二科展で安田火災美術財団奨励賞。1984(昭和59)年、第3回安田火災美術財団奨励賞展で新作優秀賞。同年の二科展では会友賞。また、第3回高村光太郎大賞展では箱根彫刻の森美術館賞などさまざまな展覧会で受賞を重ねる。

1987(昭和 62)年、二科会会員。1991(平成 3)年、安田火災美術財団奨励賞記念展で特別賞。2002(平成 14)年、二科展で会員賞。2008(平成 20)年、ローマ賞。2014(平成 26)年、文部科学大臣賞。女子美術大学名誉教授。

仲田 好江 NAKADA Yoshie

1902(明治 35)年—1995(平成 7)年

大阪府に生まれる。1924(大正 13)年、信濃橋洋画研究所に通い、小出檜重に師事。1927(昭和 2)年、上京し安井曾太郎に師事する。1928(昭和 3)年、第 15 回二科展に初入選。以後、1936(昭和 11)年まで出品を続ける。1937(昭和 12)年、創立された一水会の第 1 回展に入選、第 6 回展では岡田賞を受賞。1947(昭和 22)年、女流画家協会の創立に発起人として参加。1952(昭和 27)年、一水会委員。1966(昭和 41)年、第 20 回女流画家協会展で文部大臣賞を受賞。享年 93 歳。

野口 小蕙 NOGUCHI Shokei

1878(明治 11)年—1945(昭和 20)年

滋賀県蒲生郡桜川村(現・滋賀県東近江市)に生まれる。本名、郁。母は、南画家の野口小蘋。一歳の時に、一家で甲府に転居。その後、1882(明治 15)年に上京する。母、小蘋から画を学び、1892(明治 25)年、14 歳の時に日本美術協会展に出品し、初入選。以後、同展に毎年出品し、1899(明治 32)年と 1900(明治 33)年の出品作は文化庁の買上げとなる。1904(明治 37)年の同展においては銅牌を受賞した。パリ万国博覧会には母、小蘋と共に《秋草七種》を出品。日本美術協会展、日本画会展などで活躍した。母であり師でもあった小蘋の技術を吸収し、華やかな花鳥画や人物画を手掛けた。享年 68 歳。

野口 小蘋 NOGUCHI Shohin

1847(弘化 4)年—1917(大正 6)年

大阪に生まれる。本名、<sup>まか</sup>親。日根対山に師事。1875(明治 8)年より甲府に滞在。1877(明治 10)年、酒造業「十一屋」を営む野口正章と結婚。1882(明治 15)年、一家で上京する。1889(明治 22)年から 4 年間、華族女学校(現・学習院)の嘱託教授を拜命。1904(明治 37)年、女性初の帝室技芸員に任命。以降、宮内省からの命により数多くの作品を手掛け、皇族や宮家に重用された。1905(明治 38)年、正八位に叙せられた。享年 70 歳。

長谷川 春子 HASEGAWA Haruko

1895(明治 28)年—1967(昭和 42)年

東京都日本橋に生れる。25 歳の時に姉の勧めにより画家を志し、鍋木清方に師事して日本画を学び、ついで梅原龍三郎から洋画も学ぶ。1929 年(昭和 4 年)渡仏。同年末と翌年パリで個展を開く。1931(昭和 6)年帰国し国画会展に出品、以後、国画会展に出品を続けた。満州事変と支那事変の時には通信員として前線に赴き、戦時中は女流美術家奉公隊委員長として活動した。戦後はあまり作品を出さなくなるが、1957 年(昭和 32)年頃から「源氏物語絵巻」の制作を始め、完成後は福岡市の宮崎宮に奉納された。文筆家としても活動し『戯画漫文』などの著作がある。享年 72 歳。

堀 文子 HORI Fumiko

1918(大正 7)年—2019(令和元)年

東京都に生まれる。1936(昭和 11)年、女子美術専門学校師範科日本画部に入学。在学中の 1939(昭和 14)年、第 2 回新美術人協会展に出品し初入選。卒業後、東京帝国大学(現・東京大学)農学部作物学教室にて顕微鏡を使った記録係を務める。1952(昭和 27)年、上村松園賞。1987(昭和 62)年、イタリアの A

レッツォ郊外にアトリエを構え、日本と行き来しながら約5年間過ごす。1995(平成7)年から1999(平成11)年にかけてアマゾンやメキシコ、ペルーなどを取材旅行。2000(平成12)年、ヒマラヤ山脈に登り「ブルーポピー」を観察。享年100歳。

三岸 節子 MIGISHI Setsuko

1905(明治38)年—1999(平成11)年

愛知県起町(現・一宮市)に生まれる。1922(大正11)年、女子美術学校2学年に編入。岡田三郎助に師事。1924(大正13)年、三岸好太郎と結婚。1925(大正14)年、第3回春陽会展にて初入選。1932(昭和7)年、第2回独立展にて初入選。1939(昭和14)年、新制作派協会会員となる。1947(昭和22)年、女流画家協会の創立に発起人として参加。1994(平成6)年、女性洋画家として初の文化功労者となる。1998(平成10)年、愛知県一宮市に「三岸節子記念美術館」が開館。享年94歳。

MEMO

 *Omega Art Museum*

韮崎大村美術館

〒407-0043 山梨県韮崎市神山町鍋山 1830-1

TEL/FAX:0551-23-7775